

製品名: IFN- γ R α ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12404**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	83kDa

抗原情報

遺伝子名	IFNGR1
別名	IFNGR1; Interferon gamma receptor 1; IFN-gamma receptor 1; IFN-gamma-R1; CDw119; CD antigen CD119
遺伝子 ID	3459.0
SwissProt ID	P15260
免疫原	抗血清は、ヒトインターフェロン γ 受容体 α 鎖由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 431-480

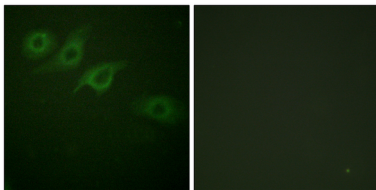
背景

この遺伝子 (IFNGR1) は、 γ インターフェロン受容体のリガンド結合鎖 (α) をコードしています。ヒトインターフェロン γ 受容体は、IFNGR1 と IFNGR2 のヘテロ二量体です。IFNGR1 の遺伝子変異は、ヘリコバクター・ピロリ感染感受性と関連しています。さらに、IFNGR1 の欠陥は、メンデル遺伝性マイコバクテリア感染症 (家族性播種性非定型マイコバクテリア感染症) の原因の一つです。[RefSeq 提供、2008 年 7 月], 疾患: IFNGR1 の欠陥は、メンデル遺伝性マイコバクテリア感染症 (MSMD) [MIM:209950] の原因です。このまれな疾患は、バチルス カルメット ゲラン (BCG) ワクチンや環境中の非結核性抗酸菌などの中等度の毒性の抗酸菌種、およびより毒性の強い結核菌によって引き起こされる疾患にかかりやすい素因となります。他の微生物が、感受性のある結核菌感染症に重篤な臨床疾患を引き起こすことはまれですが、感受性のある人の 50% 未満に感染するサルモネラ菌は例外です。MSMD の発症メカニズムは、インターフェロン ガンマを介した免疫の障害であり、その重症度が臨床転帰を決定します。一部の患者は幼少期にらい腫様病変を伴う重篤な抗酸菌感染症で死亡しますが、他の患者は、後年、結核様肉芽腫を伴う播種性だが治癒可能な感染症を発症します。MSMD は、常染色体劣性、常染色体優性、または X 連鎖遺伝による遺伝的に不均一な疾患です。機能: インターフェロン ガンマの受容体。2 つの受容体が 1 つのインターフェロン γ 二量体に結合します。オンライン情報: IFNGR1 変異 db, 多型: IFNGR1 遺伝子の遺伝的変異は、ヘリコバクターピロリ感染感受性と関連しています [MIM:600263]。PTM: Ser/Thr 残基がリン酸化されています。類似性: II 型サイトカイン受容体ファミリーに属します。類似性: 2 つのフィブロネクチン III 型ドメインを含みます。類似性: 2 つの Ig 様 C2 型 (免疫グロブリン様) ドメインを含みます。サブユニット: モノマー。

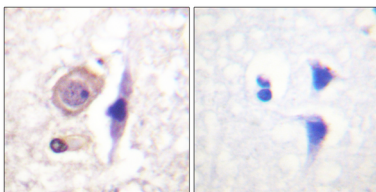
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用; Jak_STAT; ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性;

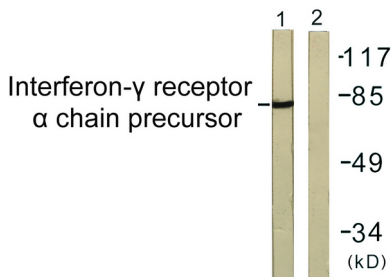
画像データ



インターフェロン γ 受容体 α 鎖抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



インターフェロン γ 受容体 α 鎖抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



COS7 細胞ライセートのインターフェロン γ 受容体 α 鎖抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。